

昨年 11 月アンケート調査へのたくさんの
ご協力ありがとうございました。

「関東汚染地域の住民意識調査」 報告会が開催されます

放射能から子どもを守ろう関東ネット主催 『知る見る Café』

日時：2015年7月19日（日）10：00～13：00（開場9：30）

場所：常総生協 本部 2階組合員活動室

報告者：高橋 征仁 先生（山口大学教授・関西学院大学災害復興制度研究所研究員）

参加費：500円（資料代含む）申込み：先着80名（申込方法は中面参照）



知る見るCafé  by 放射能から子どもを守ろう関東ネット

人びとの気持ちと選択 @関東ホットスポット



～「住民意識調査」から 明日につながる 一歩へ～

311 原発事故により、福島県外にも放射能汚染地域（ホットスポット）ができました。

汚染地域となった関東の茨城南部・千葉北西部で、昨年末に
大学と市民が共同で行った「住民意識調査」から、様々な人々
の思いが見えてきました。



- どのような人が、どこから得た情報をもとに被ばく低減行動をとっていったのか
- 4年が経過し「放射能問題」の捉え方は、人によって大きな温度差があるのはなぜか
- 住民の意識が政府・メディアによってどのようにコントロールされてきたのか



この調査を行った高橋征仁先生に、社会心理学の立場から「住民意識調査」の
結果を分析していただきます。

とってもユーモラスで、簡潔明瞭な先生のお話しに
昨日までのモヤモヤが晴れ、私たちの明日が見えてくる、そんな講演会です。
ぜひ足をお運びください。

関東汚染地域の住民意識調査報告会 放射能から子どもを守ろう関東ネット『知る見るCafé』

原発事故後の母親たちの行動は正しかったか 国はどのようなキャンペーンを張り、それは住民意識 にどのような影響を及ぼしているか・・・

7月19日（日）10：00～13：00（開場9：30）

場 所：常総生協 本部2階組合員活動室



10：00～ 1時間目 ○茨城南部、千葉北西部で初の調査！ by 高橋先生

関東のホットスポット（汚染地域）は、国から「汚染状況重点調査地域」と指定され、避難した人・被ばくを避ける行動をとった人が大勢います。でも福島県で行われているような実態把握のための調査は行われてきませんでした。

そこで、昨年末に初めて「関東汚染地域の住民意識調査」（関西学院大学災害復興制度研究所による）を行い、茨城南部・千葉北西部の母親たち約2000人から回答を得ました。その調査結果と分析について、高橋征仁先生から報告して頂きます。

10：55～ 休み時間（5分）

11：00～ 2時間目 ○リスクコミュニケーションってなあに？ by 高橋先生

4年たった今、なんとなく放射能汚染は終わっている雰囲気がありませんか？
安心安全をすりこむ政府の「リスクコミュニケーション」には、驚いたことに、社会心理学の手法が活用されているそうです。私たちが知らず知らずのうちに、納得させられている、そのトリックを高橋先生に分かり易く、解き明かしていただきます。

12：00～ 休み時間（15分）

12：15～ 3時間目 ○みんなで話そう、これからのこと by 高橋先生と皆さん

「結局、なんだったの？」「健康影響は本当に無いっていいえるの？」
「心配なのは私だけ？」
「わたしたちに今、必要なこと、そして、これからできることは？」
市民はどんな行動をしてきたのか？自治体はどんなことをしてくれたのか？
原発事故からの4年間を振り返り、この先の暮らしにつなげていきませんか？

高橋先生を紹介します

高橋征仁（たかはし まさひと）
山形県生まれ

山口大学 人文学部教授
専門は社会心理学・教育社会学

震災後、原発避難者や緊急避難行動の調査研究を開始。
リスクコミュニケーションには社会心理学のトリック技法が乱用されている点に警鐘を鳴らす。

『モラルの心理学』（共著・北大路書房）
『民主主義の「危機」
—国際比較調査からみる市民意識』（共著・勁草書房）
『社会統計学ベシック』（共著・ミネルヴァ書房）



お申込みはメールで！

申込方法はメールでお願いします

送信先：info@kodomokanto.net

件 名：719 申込み

内 容：お名前

住所

電話番号

同行者の人数とお名前

親子ルームの利用申込の有無

※利用有の場合は、お子さんの

お名前（ふりがな）・年齢・性別

（団体に所属している場合）団体名

メールで申込みできない場合は、
電話 070-1411-8339 へお問合せください

* 申込時にいただいた個人情報は他用しません*



「住民意識調査」報告会開催要項

参加申込は先着80名となっています。左下申込方法にて関東ネット窓口申し込んで下さい。

日時：2015年7月19日（日） 10：00～13：00（開場9：30）

場所：常総生活協同組合 本部 2階会議室（茨城県守谷市本町 281）

講師：高橋 征仁 先生（山口大学教授・関西学院大学災害復興制度研究所研究員）

参加費：500円（資料代含む）

申込み：先着80名 メールにて受付

・「親子ルーム」あり（定員20名、ミニ中継を予定）

「親子ルーム」とは・・・託児ではありません。大きいお子さんが一人で過ごす場合も、必ず常駐スタッフに保護者様の携帯番号等を伝えてから会場に入って頂き、スタッフからの連絡にすぐ対応できる様お願いします。親子ルームでは講演を中継する予定です。

・休憩時の飲食可。受付にて軽食と飲み物のセット販売あり（1セット500円）

お弁当等の持ち込みも可ですが、ごみはお持ち帰りください

・なるべく公共交通機関をご利用いただき、車の場合は近隣の駐車場をご利用ください

共催：放射能から子どもを守ろう関東ネット（問合せ先 tel 070-1411-8339）・常総生活協同組合

膨大な費用をかけて行われている「安全キャンペーン」



「人体には遺伝子修復機能があるから放射能を浴びても大丈夫」と！



これまでの調査の結果から、異常の増加を示す証拠は得られていません。親の被ばく線量が子どもたちに影響するといった関係性はみられないことがわかります。

異常は増えていないんですね。



ちよん解説

食事調査って何？

実際の食事に含まれる放射性物質の量を測定することにより、内部被ばく量を把握することです。

【参考】コープふくしまによる食事調査結果

コープふくしまでは組合員さんの協力を得て、随時方式による食事調査を継続して行っています。
*検査実施人数より1人1食分の食事を作り、それを2日1食ずつお弁当型で検査センターに持ちます。
検査センターにおいてモニターで一回に測定したものを検査結果として返します。

政府の安全キャンペーンに利用された生協（コープふくしま）の「陰膳調査」（食材ごとではなく、食事をまるごと放射能検査にかけて薄めて測定して大丈夫だという調査）

● 環境省 福島環境再生事務所
福島県福島市栄町11-25 AXCビル 6F

● 環境省
東京都千代田区霞が関1-2-2

除染情報サイト <http://josen.env.go.jp/>

● 国による除染に関するお問い合わせ窓口
福島：Tel.024-523-5391（8:30～17:15 土日祝除く）
東京：Tel.03-6741-4535（9:30～18:15 土日祝除く）



常総生協が職員派遣

畜産の現場で苦労を共に



子豚の世話をする伊藤博久さん
〒土浦市永井の岩瀬牧場で

県南地域や千葉県のクナ取り組みを始め一部を中心に食品などを売りにする生協だが、(守谷市)が、畜産の生産現場に職員を派遣し、一緒に働くユニークな取り組みを始めた。「安全な食品」を売りにする生協だが、その食品がどのようにして作られるのか、詳しく知らない職員は多

「安全な食品」の過程伝えたい

い。現場に入り込んで生産者と苦労を共有し、組合員に伝えていくのが狙いだ。

「豚肉をパックされた商品として見ている。こんなに手間暇と愛情を込めて育てているとは思わなかった。」

常総生協業務部長の伊藤博久さん(32)は土浦市永井の養豚業、岩瀬牧場で働いた、今月中旬までの約4カ月間を振り返った。

岩瀬牧場は1954年、岩瀬弘さん(5月)に87歳で死去)が創業。長女の卓子さんが後を継ぎ、約1000頭を飼育する。過剰生産されためん類の生地や、菓子などをメーカーから購入。熱処理して発酵させ、飼料として与えるなど、手間をかける育てている。卓子さ

ただ、具体的な育て方を知らない職員は多い。伊藤さんも、その一人だった。6年前からトラックで商品を配達する供給部に所属し、農業や畜産業の経験はゼロ。常総生協の大石光伸副理事長が「生協として大事な生産地なので、現場で経験してきなさい」と指し示した。

作業着姿で毎朝8時に牧場に出勤。豚舎の掃除から始まり、種付けの手伝い、給餌や寝床のゴミの交換などを夕刻まで手伝った。

伊藤さんは「2カ月ほどたつと、顔つきや性格の違いが分かってくる。餌をあげた豚との別れは寂しかった」と振り返り、「組合員にも、どうやって食肉になるのか伝えていきたい」と話す。

現在は商品部主任、井上元さん(35)が、1年間の予定で汗を流す。商品部では産地の取材や、カタログ製作などを担当していた。

茨城大農学部卒業で、もともと農業に関心があり「良い経験をした」と張り切っている。

常総生協は、岩瀬牧場への「出向」が終わった後、別の職員を有機農業に取り組み農家に派遣し、一緒に働いてもらう予定だ。

【安味伸一】